

「将来は地元くまもとを足場に…」 ヨーロッパで活躍中の声楽家——佐久間伸一さん

六月十二日、十三日に熊本市民会館で公演されたモーツァルト最後のオペラ作品「魔笛」。主役を演じられた、御船町出身の声楽家、佐久間伸一さんにお話をいただきました。



「まずは公演のご成功、おめでとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。立見まで出る程の大入りだったものですか、僕自身も驚いてしまいました。『手応えはいかがでしたか。充分楽しんでいただいたと思います。』



「オペラというと、みなさん身構えて聴こうとしますが、本来は、楽しんで聴いてみて、面白いなあと感じていただければ、それで十分だと思いますよ。」

「現在、イタリアで活躍なさっている訳なんです。なぜイタリアへ行くことになったんですか。」

「芸大卒業後、二期会に入りまして、その研究を終えてから二年程、東京でオペラをやったんです。とにかく、今のままでは、発声の面とか、音楽の面で、もう一つ先に進めないんじゃないかと思って。『体験しながら学ぼう、という気持ちもあつたんですね。日本においては、西洋音楽をもう一つ肌で感じられない』と思います、どうしてもイタリアへ行くことと思っただけです。でも、行く時は、ピアノをはじめ、持っているもの全て売り払って、何も無かつたんですよ。そして、そのまま十一年になりました。」

「熊本へは、よく帰って来られますか。」

「最近、年に二回程度は帰っています。公演とか、特別な事がない限り、なかなか帰ってこれませんね。『今後、オペラ公演を熊本で、定期的に行う予定はありますか。』

「今、いろいろと考えているところです。『今、いろいろな面でも、年齢的なものとか、そろそろ自分も分岐点にさしかかっていると思うんです。』

「インタビューの間、終止笑顔をやさず、にこやかにこたえて下さった佐久間さんは、繊細な芸術家というよりも、骨太の九州男児そのものといった感じでした。」

★ 昭和二十二年五月五日御船町に生まれる。御船高校卒業後芸大へ進む。イタリアへ渡り、イタリア声楽コンクール受賞・日伊声楽コンクール入賞など多数の賞を獲得。

首長対談

細川知事

テキサス州サンアントニオ市長



サンアントニオ市は、『第二のベニス』とも言われ、リバー・ウォーク（河辺の散歩道）を中心とした街づくりに実績をもち、バイオやメデイカルなど先端科学技術を中心とした都市づくりに取り組んでいるところ。いろいろな意味で共通点をもつ熊本とサンアントニオ。若手細川・シスネロス両首長の懇談はテクノポリスや緑の問題を中心に和やかにすめられました。

サンアントニオ市

人口八十四万人。テキサス州ではヒューストン、ダラスに次ぐ都市。南テキサス経済の中心地として、農業・商工業が発展。最近では、電子工学、産学官連携、イテックの強い、すう勢がみられる。



NEWS OF 熊本

話題です。

ドキッとさせる人

地方自治体の台風の目(?!) 熊本県のハデな人材戦略ツールに注目



まず、下の写真をじっくりご覧いただきたい。この楽しいパンフレット、実は「熊本県職員募集案内」なのだ。

やバイオテクに力を入れる熊本県の意気込みがヒシヒシと伝わってくるこのパンフ、一読する価値がある。

就職情報誌「ベルフ」
6月26日号(隔週木曜日発行)

郷土玩具のビジュアルの表紙をはじめ、かなりユニークな内容。遊び心いっぱいの適性テストから、熊本ゴラクマップ、県庁のおもしろ人間大集合と、たまたみかけるように熊本の魅力が展開し、従来の募集案内では考えられない「コミュニケーション」がたくらんでいる。『田舎』というような言葉もポンポン出てくる大胆さ。



〈問合せ先〉熊本県人事委員会事務局096(383)1111